

2020年 事業計画書

1. 事業方針

基本方針：「すべての子どもの笑顔があふれる活動拠点を地域とともにつくります」

第4期指定管理基本方針を事業方針とし、すべての子どもが児童会館に来館しやすい環境づくりと運営を目指す。

2. 重点目標

①「ビジョン・ミッションの再設定を行い組織力の向上を図る」

当財団こども育成部門として、全職員が目指すべき方向性とその方法を再確認し明確化を行う。職員全員がどこを向いて仕事をすればよいのか、何をやるのが正義なのか、重視すべきことは何か、貢献すべきことは何か、失敗や間違いにどう気づけばいいのかの判断基準となる文言を掲げ、10年先を見据えて組織力の更なる向上を図る。

②「未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ちあう環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す」

未来を担う子どもたちが、夢や希望を持って日常を過ごすためには、寄り添う多くの大人も生き生きと日々を過ごすことが重要である。目まぐるしく変化する社会情勢の中でも、現代と将来の問題を処理しうる能力をもつ人材を育成し、人間性豊かな指導者により、未来を担う子どもたちの育ちを支援する事業を展開する。職員同士が育ちあい、自己実現可能な職場環境を整え、青少年の健全育成に寄与する。

③「子ども運営委員会の役割や効果を再検討し、意見表明や自己実現をとおした成長の機会につなげる」

札幌市が定める子どもの権利条例に立ち返り、この条例が目指す「自立した社会性のある大人への成長」「子どもの視点に立ったまちづくり」「権利侵害からの救済」を常に意識し、子どもたちの健やかなる成長を支えるための事業展開を行う。また、子ども運営委員会活動が及ぼす事業効果の検証を行い、内外に周知する機会を模索する。

④「全道・全国との連携を強化し、児童館行政の動向把握と将来構想へ向けた取り組み」

子どもたちを取り巻く社会環境は常に変化や発展を続けている。今後も児童会館運営にかかる社会や行政動向の把握は安定的な施設運営と将来展望に必要な不可欠な情報となる。北海道児童館連絡協議会への加入を進め、同協議会や加盟自治体、全国児童館連絡協議会との連携を強化し、少子化、生産年齢人口の減少などの対策を早期に検討する機会につなげるとともに、全国の児童館職員との情報やノウハウの交換をとおし、職員としての視野の拡大、時代の変化に対応したしなやかな事業運営を目指す。

⑤「安心安全な施設運営の強化」

児童会館が地域の子どもたちにとって安心・安全な施設であるべく、震災や防犯への意識を醸成するとともに、日常の管理運営においても常に環境整備に努める、現行運営方法の見直す視点を持つなど安全対策の再構築を検討していく。

3. 数値目標（具体的な根拠を示すこと）

| | 項目 | 2020年度目標値 | 2019年度見込み |
|-----|-------------------|------------------|------------------|
| (1) | 地域と連携した事業の実施 | 1館あたり2回以上/年 | 4.7回 |
| (2) | クラブ・サークル成果発表の機会 | 1館あたり2回以上/年 | 5.8回 |
| (3) | 子どもたちによる読み聞かせの実施 | 1館あたり2回以上/月 | 3.8回 |
| (4) | 子ども運営委員会の企画する事業実施 | 1館あたり2回以上/年 | 5.6回 |
| (5) | 自然体験活動の実施 | 1館あたり2回以上/年 | 15.4回 |
| (6) | 利用者アンケート 総合満足度 | 80%以上 9月頃実施予定 | 3月にアンケート 実施予定 |
| (7) | 利用者アンケート 接遇満足度 | 80%以上 9月頃実施予定 | 3月にアンケート 実施予定 |

※2019年度アンケートに関しては、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休館のため未実施となっている。再開次第、アンケート調査を行うこととしたい。